



# 九条の樹

発行：東久留米「九条の会」

連絡先：Tel 042-473-9489 (鈴木)

URL : <http://higashikurume-9.net>

mail : [higashikurume9@jcom.home.ne.jp](mailto:higashikurume9@jcom.home.ne.jp)

## さよなら

## 安倍政権

東久留米「九条の会」事務局

安倍首相の目標は憲法「改正」をする初めての首相となることであつた。現行憲法の基本的人権など民主主義の思想を「天賦人権説だ」と鼻で笑い、外国から押し付けられた「しろもの」と呼んで一貫して軽蔑を示していた。このような人が一国の政治のトップに立つたことが間違いであつた。その安倍首相が窮地に追い込まれている。

した黒川氏の失脚、等々数えだしたら切りがない。

憲法「改正」の扉をこじ開けようとしても、その前に「首相の人柄が信頼できない」という内閣不支持がNHK世論調査でも大きくなつた。信頼できない人に国民は憲法をいじらせないであらう。

党内でもポスト安倍をねらう人たちの動きが忙しくなつてきた。「安倍一強」と言われた体制が壊れかけている。

では新しい政権はどうなるのか。ともかく顔が変わればいいのか。どうだろうか。

コロナ対策で有効な手が打てなければ新政権は持たない。またアベノミクスの後始末。膨大な借金を抱えた国の財政をどう健全化するのか。国民の暮らしを支えながら経済も安定させていくのも大変なことだ。

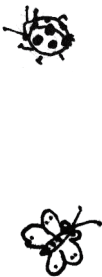
九条の会として一番願うのは近隣諸国との緊張緩和、対話路線への外交の転換だ。そのためには憲法の平和理念を心から理解し大事にする政府だ。

そしてそのためにはアメリカ政府にはつきりものが言えなければいけない。そこは私たち国民にも覚悟がある。そういう政府を持ったことがないのだから。

外交、防衛はアメリカの後についていけば何とかなるだろう、という時代は終わった。アメリカに対し日本の国民の立場で話し合えるか、ということだと思う。そのとき初めて近隣の国の人たちとも自立した国として対話が始められるのだらう。

友問題文書改ざんを強いられた公務員自殺の真相解明を求める裁判、検事総長に仕立てようと

コロナ対策で有効な手が打てなければ新政権は持たない。またアベノミクスの後始末。膨



# 聞いて くだろい

## 子どもにとつての 新型コロナ

佐藤 学（学園町在住・大学勤務）

4月15日のユネスコ調査によれば、世界の91%の子どもが学校に行けない状態になり、この小文を書いている7月18日現在も、世界の子どもの61%が学校に行けていません。新型コロナは、子どもたちの人権の中心である学ぶ権利を剥奪してしまいました。

新型コロナ下の子どもたちに対する対応は、皮相な印象をぬぐえません。「9月入試」騒動は端的な現われですが、「進捗遅れ対策」と「IT環境整備」も同様です。「進捗遅れ」以上に深刻なのは「一斉授業」（教師の一方的授業）による学びの質

の低下と、貧富の格差による「教育格差」、それに子どもたちの精神的ストレスです。

「IT環境の整備」は重要ですが、すべての学校が休校状態にあった4月26日、遠隔授業を行っていた小中学校は5%しかありませんでした。2012年PISA調査で、コンピュータの活用時間が長いほど、学力が低いという結果も示されています。精神的ストレスはもっと深刻です。教師たちは、学校再開と同時に子どもたちの心の荒れに直面してきました。上海市では新型コロナによる子どもの死者はゼロなのに、学校を再開して一週間で26人の子どもが自殺したと、教育委員会から私に伝えられました。

感染爆発のもとでの学校再開が大論争になったフロリダ州の事例は示唆的です。同州の7月18日時点の推定感染者数は280万人、死者数は4732人、子どもの陽性率は31%に達しています。しかし、子ども（高校生以下）の死者数は4人です。

子どもは発症しにくく、重症化しにくいのです。同州は、子どもの学習権を尊重して学校再開に踏み切りました。

子どもにとつて新型コロナは学びの権利の剥奪であり、教育格差の拡大であり、精神的危機の拡大です。感染自体は平等に作用しますが、そのダメージは弱者に襲いかかります。高齢者の命を守ることで子どもたちの学ぶ権利を保障することこそが、これからの私たちに求められていると思います。

## 国家総動員体制への の危惧

茂木ちあき（八幡町在住）

七月半ばから東京都の新型コロナ感染者数が最多を更新し続いている。三月の全国一斉休校にはじまり、マスクの遅配や給付金の対象枠の変更、アラートやらリモートやら、そしてウィズコロナだ。聞きなれない言葉

で国民を翻弄しているよううで、ばかばかしくなってくる。

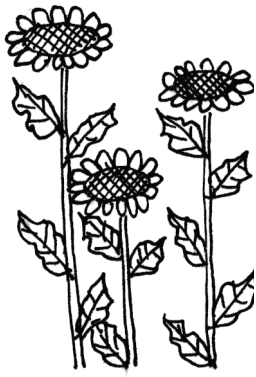
マスクを配布するとは言ったものの、発注したのは興和、伊藤忠などの大企業と、得体の知らない怪しい企業。計6社に466億円の仕事を投げた。そのうちの1社ユースピオは、福島市の本社を訪ねると、プレハブのような工場に公明党のポスターが貼つてあったという（赤旗ネット版5・20）。GOTOキャンペーンも国交省がらみだ。国交大臣は公明党の定席だし、観光・運輸関連の利権が大きくかかわっているのは明白だ。キャンペーンの費用を、観光地の自治体や個人経営の観光業者に給付する方法はなかったのか。

休校は解除されたものの、子どもたちは相変わらず過酷な状況に置かれている。学童や保育園の指定管理体制を撤廃し、学校の少人数学級を実現する。親や教育関係者の積年の要求を早く実現していれば、もう少し別の対処ができたはずだ。国民に

目を向けるべき施政者たちは、  
いったい誰を見て誰に向かつて  
発信しているのだろうか。

更に不安を感じるのは、国民  
を指示待ち人間にしてしまった  
ことである。飲食店は〇時まで、  
飲酒は〇時まで、スーパーは三  
日に一度、理髪店は諾か否か、  
等々、日常生活を細かく規制し、  
その異常さに憤慨するよりも、  
感染の恐怖を強く印象付けて従  
わざるを得ない雰囲気作りに成  
功した。戒厳令下の絶対服従と  
同じだ。

現政権の劣化は今さら言うに  
及ばないが、国民一人ひとりの  
自立心も急速に衰えているので  
はないか。自らの判断で考え行  
動する訓練をしないと、国家総  
動員体制はあつという間に完成  
する。



## 抗日政権は民主政 権だった

内田知行（弥生在住）

私は中国の近現代史を勉強し  
ています。日中戦争時代の中国  
共産党の政治的主張の一部を紹  
介します。

当時の中国共産党は現代と異  
なり、自らの権力行使には抑制  
的でした。支配の正当性を強引  
に民衆に押し付けようとはしま  
せんでした。言論の自由を保障  
して、民衆の自主性を育てよう  
としました。そのため、当時  
抗日の村で共産党が提唱したの  
が「三三制」でした。当時の文  
章です。（大岳日報）1941  
年山西省南部の抗日政権の機関  
紙）

組織された政府は、決して『一  
党独裁』の政府であるはずもな  
く、…政府の中では共産党員が  
三分の一、あるいは三分の一未  
満を占める。三分の二はその他  
の抗日党派や無党派の人々が占  
める。例えばそれは普通の農民  
や知識青年や各流の紳士や開明  
地主たちである。共産党のこの  
ような『独占を願わない』『大  
切なことはみんなと相談する』  
精神は、我々が擁護しその他の  
党派が学習するに値する『三三  
制』の政府であり…。

3万2466票（61・98%）、  
宇都宮健児氏84万4151  
票（13・76%）、市8198  
票（15・65%）、山本太郎氏  
65万7277票（10・72%）、  
市5322票（10・16%）でした。  
東久留米では宇都宮さんを庇  
援しようと、「うつけん勝手連」  
で6月7日から投票日前日まで  
毎日駅頭宣伝を行いました。東  
久留米駅西口で、宇都宮さんの  
政策プラストーや「投票に行き  
ましょう」の幟を持ちハンドマ  
イク宣伝、告示後はスタンディ  
ング宣伝。告示後の19日から  
は、朝夕2回、宣伝時間帯を変  
えて宣伝。告示後はハンドマイ  
クが使えないため、一人ずつ肉  
声で訴えました。若い女性がチ  
ラシを受け取り対話にもなりま  
した。「困っている人を見捨て  
ない」「貧困と格差のない東京  
を」などの政策が若者に受け入  
れられたのではないかと思われ  
ます。この宣伝には共産党・社  
民党・市民自治フォーラムの市  
議が参加し訴えました。最終盤  
には30人の参加で盛り上がりま

## 都知事選「うつけん 勝手連」としてがん ばった駅頭宣伝

松元忠篤（小山在住）

都知事選結果は小池百合子  
氏全都で366万1371  
票（59・70%）、東久留米市

した。

候補者カーなどが東久留米に来た時、立憲民主党、日本共産党、社民党、市民自治フォーラムの市議が参加し訴えました。

小池百合子氏のテレビ討論拒否によって、4年前の知事選公約違反、安倍内閣と財界よりの都政運営を公にすることができなかったこと、コロナ問題での毎日のテレビ登場により知名度を上げ大量得票を許したことは残念でしたが、立憲民主党、日本共産党、社民党、緑の党が応援し、国民民主党の小沢一郎氏や平野義孝幹事長なども応援し、大きな共同ができたことは今後に生かされる財産となりました。



# 追悼

## 田畑精一さん

稲継由美子（南沢在住）

東久留米九条の会の呼びかけ人代表でもあった、田畑精一さんが6月7日89歳で亡くなられました。

学園町在住で、古田足日さんと共著の「おしいれのぼうけん」は市内の保育園を舞台にした絵本で、日本中の子どもたちに今も読まれています。

戦争が終わった時は14歳。それまでは立派な軍国少年だった田畑さんは、その間違いに気づいてからは、戦争を生み出した権力や平和ということにとっても敏感でした。（中央という言葉が嫌いで、中央線にもなるべく乗りたくない！）自分の原画展が開かれる韓国にも、「日本が植民地にして行った加害の歴史を思うと、足がすくんで韓国の地を踏めない」と行きませんでした。

高校は美術部でしたが、原子物理に興味を持ち、京大に入学するも原子物理に疑問を抱くようになり、人形劇に魅

せられ、間もなく中退、人形劇団ブークを経て妻の保坂純子と「人形座」を立ち上げ美術担当として、人形のデザイン・衣装を手がけます。

人形座解散後に古田足日に出会い、絵本、挿絵、紙芝居も多く描くようになりました。

何事にもこだわりが強く、一作にかける執念と時間は並はずれているように見えました。『おしいれのぼうけん』では、自ら保育園に入園、園児として生活を体験し、また『ピカピカ』では廃棄された自転車がアフリカに渡ってまた役に立つまで、国際協力NGOジョイセフと一緒に田畑さんもアフリカに行き、自転車が実際に産婆さんの乗り物として使われるまでを見届ける、などエピソードは尽きません。

田畑さんと二度と会えなくなったのは、本当に残念で悲しいです。田畑さんの思いを引き継げる私たちがいられるように、見守ってください。

### 《平和を考える本》

『戦火の淡き光』

（マイケル・オンダーチエ作／作品社）



空襲の跡も生々しい第2次世界大戦後のロンドン。14歳の僕と姉を置いて両親は姿を消し、我々は家に入りする怪しげな男たちに養われることになった。なぜ狙われるのか、理由もわからないままに何度か危険に遭い、男たちに守られつつ、やっと成人した僕は諜報機関に就職。

そこで、戦時中にスパイ活動をしていた母の過去を知る。戦後も母は命を狙われ続け、仲間の裏切りにも遭って…。「戦争は決して終わることがない」という重いメッセージが、虚構と実態の複雑に絡み合う作品の中に籠められている。

（高田桂子）